高等学校商業

解答はすべて解答用紙に書きなさい。

［１］ 次の(1)～(5)の問いに答えなさい。

(1) 定価¥370,000の商品を定価の2割引で販売した。このときの値入率は13%であった。この商品の原価を答えよ。(円未満四捨五入)

(2) ７月９日に，額面¥610,000の約束手形（満期日10月５日）を割引きたい。割引率年2.5%で割引いたときの手取金を答えよ。(両端入れ，割引料の円未満切り捨て)

(3) 次の資料をもとに売上高総利益率（%）を求めよ。(小数第２位を四捨五入)

総売上高	¥65,750,000	売上値引高	¥8,000
総仕入高	¥49,330,000	仕入戻し高	¥20,000
期首商品棚卸高	¥13,550,000	期末商品棚卸高	¥12,870,000

(4) 合計試算表の作成によって，仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行われたかどうかを確認するために，どのような点を調べるか，２つ答えよ。

(5) システムアドミニストレータの役割を説明せよ。

［２］ 簿記について，次の(1)～(5)の仕訳を示しなさい。ただし，商品に関する勘定は３分法によること。

(1) 商品¥460,000を売り渡し，代金は掛けとした。なお，発送費¥9,000を現金で支払った。

(2) 土地100㎡を１㎡につき¥200,000で買い入れ，仲介手数料¥350,000とともに小切手を振り出して支払った。

(3) 所有する社債の利札¥50,000の支払期限が到来した。

(4) 決算にあたり，当期の法人税と住民税および事業税の合計額¥890,000を計上した。ただし，中間申告で納付した法人税と住民税および事業税の合計額は¥400,000である。

(5) 建物(取得原価¥30,000,000　減価償却累計額¥4,500,000）が焼失し，保険会社に保険金支払い請求を行った。

［３］ 商業に関する時事問題について，次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) ＴＯＢを行う者が，買付の開始において公告すべき４つの事項を，現在施行されている「証券取引法」に基づいて答えよ。

(2) 「電子署名及び認証業務に関する法律」によって定められた電子署名を，電子商取引で利用する理由を述べよ。

(3) 財務諸表の一つであるキャッシュフロー計算書の利点について，具体例を用いて述べよ。

(4) 「企業会計原則」で定める継続性の原則に反した場合に起こる問題点について，具体例を用いて述べよ。

［４］ 商業倫理について書かれた次の文を読み，下の(1)～(3)の問いに答えなさい。

資本主義精神の源泉には，マックス・ヴェーバーが説いたように①プロテスタンティズムの倫理があった。資本の論理ともっとも対極にあると考えられた禁欲の倫理が，資本主義形成のエネルギーとなっていたのである。

アダム・スミスも『国富論』を著す前に②『道徳感情論』を書いている。こうみてくると資本主義の成立過程にあって，「資本の論理」は「倫理」「道徳」と見事なバランスを保っていた。「神の見えざる手」が社会全体を最適調和に導く，とアダム・スミスがいう「神」の背景には，欲求と倫理のバランスがあったのである。

一方，日本の資本主義の芽生えは，江戸時代の商業にあった。農本主義，封建主義の体制から，資本の論理を形成していくには大きな社会的抵抗があり，江戸時代の先人たちは大変な苦労を積み重ねた。その一人が石田梅岩（1685～1744）である。

石田梅岩の学問は，「人の人たるの道」を探求したところから出発している。彼の③商業の論理，資本の論理を形成する前提には，まず「倫理，道徳」があったということを知っておかねばならない。そのバランスの上に，「商人道」は組み立てられていた。

その石田梅岩の説く「商人道」が江戸時代の多くの商人たちに支持された。その結果，梅岩の心学講舎は他に例をみないほどの広がりで全国的に展開された。その点において，西欧の資本主義と同じく，日本においても，「資本の論理」と「倫理」のバランスは見事にとられていたのである。

(1) 下線部分①が，資本主義精神の源泉となった理由を，簡潔に説明せよ。

(2) 下線部分②の中で，アダム・スミスは，自由競争社会におけるフェア＝プレイ精神の重要性を説いているが，それについて簡潔に説明せよ。

(3) 下線部分③に対して，現在もＣＳＲ（企業の社会的責任）が求められているが，ＣＳＲについて，最近の事例を用いて，簡潔に説明せよ。